

前に譯語にて記せしものを更に原語にて出せしものにして、かの賢力と記して更にまた毗伽と書きしに同じ。

默は即ち此の可汗の本名にして、西紀六九二年より七一六年迄位にあり、突厥毗伽可汗碑文に見ゆる Kapagan

可汗に相當するものなることラドロッフ氏の説ける所なり、(Radloff. Altürkische Inschriften der Mongolei. II

Folge. p. IX.)

𐰽は突厥の官名にして *čig* なる語に相當す、西突厥の左五部に五大𐰽を置きて之を管轄せしめ、之を大首領と

稱せしこと見ゆれば(舊唐書百九十四下) 𐰽は即ち首領の意に相當するものなり、其の可汗の位に上りし以前、𐰽と稱せしを

以て、即位後も尙ほ此の稱を傳へたるに外ならざるべし。

○君臨右地、九姓畏其神明、霸居左衽、十二部忻承美化。

九姓が回鶻を指せるものなるは特に言を要せざれども、十二部なる部族の名稱は、又た突厥時代には存せざる所なり、されど溯りて魏書高車傳を見るに「高車之族又有十二姓」として、一々其の名を列舉せり、而して茲に姓といふものはまた部と稱したること明らかにして、此の十二姓中の一なる副伏羅氏のことを記せる所に、「先是副伏羅部爲蠕蠕所役」と見ゆ、よりて思ふに此の墓誌に十二部と記せるものも、また之を指せるものに外ならざるべし、もとより高車十二部は魏の討伐する所となりて敗散し、當時尙ほ漠北に勢力を有せしものには非れども、然も回鶻の九姓に對して字句を連ぬるに當りて、曾て此の地方に據りて大に勢を振ひ、能く人の知る所なりし十二部の名を用ゐしものと見るを得べし、右地在衽の語もたゞ一箇の對句にすぎざるべきも、然も九姓回鶻の據りし地は、